

# 産業サイバーセキュリティ研究会

## ワーキンググループ3(サイバーセキュリティビジネス化)(第5回) 議事要旨

### 1. 開催年月

令和2年3月【書面開催】

### 2. 委員等

資料2 委員等名簿のとおり

### 3. 配付資料

資料1 議事次第・配布資料一覧

資料2 委員等名簿

資料3 事務局説明資料

### 4. 議事内容（委員からの主な御意見）

#### (1) Proven in Japan(検証基盤)について

＜セキュリティ製品の有効性検証・実環境における試行検証＞

- ・ 暗号化や符号等、日本特有のもの、日本らしいものも取り上げてはどうか。
- ・ 応募するメリット・インセンティブが明確にあると、ベンダの応募を促進できるのではないかと。

＜攻撃型を含めたハイレベルな検証サービス＞

- ・ 製品メーカー側の問題意識を喚起することも重要であるため、ハイレベルな検証を受ける必要があるという意識喚起政策とセットで進めると良い。
- ・ 企業がインシデント発生後の対応の準備をする意味で、ペンテストは有効。そのようなビジネスの成長を図るためには、人材育成の取組や、育った人の働く場の確保が必要である。

#### (2) 情報セキュリティサービス審査登録制度について

- ・ クラウド移行等でシステムを基盤から再構築する案件が最近多く、セキュア開発や、地方・海外拠点のガバナンス強化に関するコンサルティングサービスのニーズがある。それらのサービスを追加してはどうか。
- ・ ベンダの登録メリットが重要である。また、審査にかかる時間の短縮の検討等も必要ではないかと。

#### (3) セキュリティに関する契約の在り方の検討について

- ・ 中身まで踏み込むのは難しいと思うが、こういったことをこのレベルで決めた方が良く、というくらいは出せると良い。

#### (4) サイバーセキュリティお助け隊について

- ・ 中小企業のサイバーセキュリティのレベルを高めていくためには、問題意識を掘り起こし、セキュリティは必要な投資であると認識してもらうことが重要である。そのためにも、具体的事案やそれから類推される損害想定額の公表等は今後も進めていただきたい。
- ・ 今年度実証事業でせつかく1,000社以上のデータが集まったので、中小企業庁とも連携していただきたい。
- ・ インシデント発生時の駆けつけも重要だが、日頃から中小企業のIT環境を見守るパトロールのような機能もあると良い。
- ・ サプライチェーン単位で中小企業を守るには、全国各地に駆けつけ体制をどう組むかが課題。

(5) 中小企業向け製品・サービスの検証について

- ・ 中小企業の実態を踏まえると、クラウド利用への誘導や、製品単体ではなくお助け隊等のサービスとの連携があると良いのではないかと。

(6) コラボレーション・プラットフォームについて

- ・ 東京のコラボレーション・プラットフォームは、参加人数は減るかもしれないが、業界ごとの分科会のような形でやっても良いのではないかと。
- ・ 地方の課題は地場のセキュリティ事業者が無い/少ないこと。東京で活躍している会社を地方に連れていくという取組は良いと思う。
- ・ “地方版”という言葉は不要なのではないかと。

5. 今後の対応の方向性

頂いた御意見を踏まえ、来年度以降の取組を進めていくこととなった。

お問合せ先

商務情報政策局 サイバーセキュリティ課

電話：03-3501-1253